　　水の東西　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　山崎正和

〔　〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。　　【基礎問題】

「おどし」が動いているのを見ると、そのの中に、なんとなく人生のけだるさのようなものを感じることがあるかわいらしい竹のシーソーイッタンに水受けがついていてそれにの水が少しずつたまる。静かに緊張が高まりながら、［　Ａ　］水受けがいっぱいになると、シーソーは［　Ｂ　］傾いて水をこぼす。緊張が一気にとけて水受けハね上がる時、竹が石をたたいて、こおんと、くぐもった優しい音をたてるのである。

　見ていると、単純なユルやかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない徒労がまた一から始められる。ただ、曇った音響が時を刻んで、庭セイジャクと時間の長さを［　ア　］がうえにも引き立てるだけである。水の流れなのか、時の流れなのか、「鹿おどし」は我々に流れるものを感じさせる。それをせき止め、刻むことによって、この仕掛けは［　Ｃ　］流れてやまないものの存在を強調しているといえる。

　私はこの「鹿おどし」を、ニューヨークの大きな銀行の待合室で見たことがある。日本の古い文化がいろいろと紹介される中で、あの素朴な竹の響きが西洋人の心をひきつけたのかもしれない。だが、ニューヨークの銀行では人々はあまりイソガしすぎて、一つの音と次の音との長い間隔を聴くゆとりはなさそうであった。［　Ｄ　］窓の外に噴き上げる華やかな噴水のほうが、ここでは水の芸術として明らかに人々の気持ちをくつろがせていた。

　流れる水と、噴き上げる水。

　［　Ｅ　］ヨーロッパでもアメリカでも、町の広場にはいたるところにみごとな噴水があった。ちょっと名のある庭園に行けば、噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群れが庭をぎっしりと埋めつくしていた。樹木も草花もここでは添え物にすぎず、壮大な水の造型がとどろきながら林立しているのに私は息をのんだ。それは揺れ動くバロック彫刻さながらであり、ほとばしるというよりは、音をたてて空間に静止しているように見えた。

　［　Ｆ　］的な水と、［　Ｇ　］的な水。

問一　二重傍線ａ～ｅの片仮名を漢字に直しなさい。

問二　［　Ａ　］・［　Ｃ　］に入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

　　　①　かえって　　②　したがって　　③　やがて　　④　たとえば

問三　［　Ｂ　］に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

　　　①　ふらりと　　②　ぐらりと　　③　するりと　　④　はらりと

問四　［　Ｄ　］・［　Ｅ　］に入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

　　　①　言うまでもなく　　②　それよりも　　③　そのせいか　　④　そういえば

問五　［　Ｆ　］・［　Ｇ　］に入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。文脈から順序も考えて選ぶこと。

　　　①　空間　　②　象徴　　③　具体　　④　時間

問六　波線部「［　ア　］がうえにも」が「なおそのうえに。ますます。」という意味になるように、［　ア　］に平仮名二字の語を答えなさい。

問七　傍線１「かわいらしい竹のシーソー」という描写は「鹿おどし」のどのような印象に相応する描写か。文中から漢字二字で抜き出しなさい。

問八　傍線２の「それ」は何を指すか。文中から五字以内で抜き出しなさい。

問九　傍線３「緊張が高まり、それが一気にほどけ」とは、何のどのような様子をいっているのか。五十字以内で説明しなさい。